



国水研だより

No. 4
'98 5月号

NATIONAL INSTITUTE FOR MINAMATA DISEASE

日 次	創立20周年を迎える国水研	1
	研究センターの動き	2
	こんな事をしています（業務紹介）	3
	海外見聞録	5

国際会議参加記	6
職員紹介	6
編集後記	8



創立20周年を迎える国水研

所長 滝澤行雄

私たちの「国水研だより」第4号が刊行の運びとなりました。

今年は、国立水俣病総合研究センターの前身である国立水俣病研究センターが設立されてからちょうど20周年にあたります。ここに本号をかりて、これまでの当研究センターの歩みを振り返ってみたいと思います。

昭和48年5月、公害対策に対する社会的要請が高まる中、当時の三木武夫環境庁長官が「水俣病患者の福祉対策として水俣病の研究、治療、リハビリテーション、作業場等、一連の施策を総合的に行う施設を創る」との構想を提唱されました。これを受け、同53年10月、環境庁国立水俣病研究センターが当水俣の地に創設されました。

爾来、今日にいたるまで水俣病の研究機関として数多くの研究成果をあげ、昭和61年9月にはWHO（国際保健機関）から有機水銀の健康影響に関する研究協力センターの指定を受けました。平成7年9月に「水俣病発生地域としての特性を生かした研究機能の充実などを図る」ことを目的に組織改正を行い、従来の水俣病の医学研究に加え、社会科学的、自然科学的な調査研究、水俣病に関する資料の収集・整備・提供を行うとともに水俣病に関する国際的な調査研究体制を一層強化した国立水俣病総合研究センターが発足しました。

今日、オゾン層の破壊、温暖化、酸性雨、熱帯雨林の減少、産業廃棄物処理など「環境問題」は国際社会の重要な关心事となり、現代における最大のキーワードとなっています。このような社会状況の中で、今回の20周年は当センターにとって、将来を考える絶好の機会であります。わが国の経験を教訓とし、私たちの得た知識や体験を諸外国に発信し、互いに連携を保ちながら環境保健の推進をどのように展開してゆくかは重要な課題であります。

当センターでは来る10月に20周年の記念式典を挙行し、その前後に所内的一般公開、出張講義などを予定しております。これを契機に、当センターの業務にご協力いただいている関係各位に一層のご支援をお願いする次第であります。とりわけ、「持続可能な発展」をキーワードに加え、すこやかな郷土の「環境創造」をめざす水俣市民の皆様の一層のご協力がいただけますよう、心から願ってやみません。

研究センターの動き

(平成9年12月～10年4月)

- 12月2日（火） 「水俣病関連資料整備検討委員会第4回作業部会」開催
 　　「金採掘に起因する水銀の健康影響に関する国際ワークショップ」
 　　（フィリピン）報告会議
- 12月9日（火） 前国立水俣病研究センター所長 加藤寛夫先生 特別講演会
- 1月22日（木） 「国立水俣病総合研究センター運営検討会」開催
- 2月4日（水） 「水俣病関連資料整備検討委員会第5回作業部会」開催
- 2月22日（日） 「水俣病に関する社会科学的研究会（第3回）」開催
- 3月9日（月）
 　　↓ 「研究企画会議」開催
- 3月10日（火）
- 3月26日（木） 「水俣病関連資料整備検討会（第2回）」開催
- 4月18日（土） 「水俣病に関する社会科学的研究会（第4回）」開催（熊本市）



◀フィリピン（マニラ）ワークショップ後の記者会見



水俣病に関する社会科学的研究会



加藤前所長特別講演会

【国立水俣病総合研究センター設立20周年記念行事のお知らせ】

今年は、国立水俣病総合研究センターが当水俣の地に創設され、今年で20周年にあたります。当センターでは来る10月6日（火）に20周年記念式典を挙行し、またその前後には以下の行事を行う予定です。

1. センター施設の一般公開（希望者に対する毛髪水銀の測定）
2. 水俣病資料館でのセンター各種資料等の展示
3. 水俣市の中学生を対象とした出張講義

第3回「水俣病に関する社会科学的研究会」開催

国際・総合研究部 田村 憲治（社会科学室長）

水俣病発生から昭和43年の政府統一見解までの原因究明過程を検証し、発生あるいは拡大を防止するための教訓をまとめたため、昨年7月に発足した「水俣病に関する社会科学的研究会」の第3回の研究会が、2月22日（日）当センターで開かれました。

今回の研究会では、これまで熊本市内で開かれた

2回の研究会で議論された各論点ごとに、水俣病の経験から教訓を導くにあたっての具体的な検討に入りました。

当日は橋本道夫座長はじめ10人の委員全員に出席いただき、9時から16時までというハードなスケジュールにも係わらず、事務局が用意した分厚い資料集で適宜事実関係を確認しながら、終始活発に議論していただきました。

引き続き論点ごとの検討を進めるため、次回の研究会は4月18日（土）に熊本市内で開催の予定です。

こんな事をしています（業務紹介）

水俣湾の環境調査

国際・総合研究部 保田 叔昭（自然科学室長）

自然科学研究室は、昨年の7月に、当研究センターの改組に伴って新設された、国際・総合研究部の一部門として発足しました。当室の受けもつ業務の一つに周辺地域の環境特性に関する調査研究があります。これを受けて始めたのが、水俣湾の潮間帯生物の群集調査です。

具体的には、海岸の、潮の満ち干の間に出現する場所（これを潮間帯と呼びますが）そこに住む動物を対象にして、どのような種類がどのくらいの密度で棲んでいるかといったことを、九州大学天草臨海実験所の応援を得て調査しています。この中には、大勢を占める種があります。例えばカキなどは時期によっては至る所で採集できます。また、水俣の人々がビナと呼んでいる巻貝の仲間のうち、スガイもまた至る所でとれます。このほか、釣りの餌として有名なゴカイの類がいます。これは多数を採集することは難しいのですが、大体どこにでもいます。このような生き物達は、水俣湾の第1回目の調査でおよそ128種類を数えました。その大部分は二枚貝と巻貝の仲間たちですが、節足動物、環形動物、扁形動物、棘皮動物、紐形動物、そして腔腸動物といった広範囲の無脊椎動物を観察することができました。

ところで、これらの生物の多くが、その幼生時代には浮遊生活を送ります。これらは、一生を浮遊してくらす桡脚類などのいわゆるプランクトンとは違いますが、沿岸部で稚魚の格好の餌となります。また、満

ち潮のときには、あがってきた潮の中に身をさらし、あえなく魚達の餌になる生き物が多数含まれています。上げ潮のときに釣果があがることを、釣り好きの方はご存知でしょう。したがって、こういった生き物たちにもし汚染が起こったら、それは魚達へも伝播することになります。魚を多食する私達日本人は、潮間帶生物に汚染がないことを常にチェックし続けるために、より優れた手法を開発し、不断のモニタリングを続けることが重要です。

昨年、水俣湾は漁業に関する安全宣言が出され、仕切り網も撤去されました。過去の忌まわしい水銀汚染の爪あとは、最新の優れた測定器でようやくとらえることのできるくらいの極めて低い程度になっています。しかしながら、今後とも、かつて水俣湾でおこったような生物たちの汚染が、水俣湾はもとより、他の地域においても決して再び繰り返されることのないよう、不断の調査研究を行ってまいりたいと考えております。



水俣湾潮間帯生物の群集調査 西浦（グリーンスポーツ）岩礁

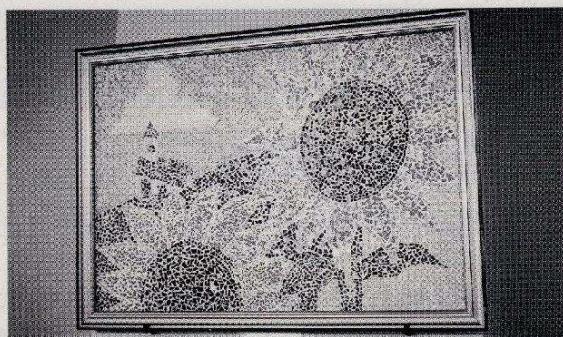
OT or PT ?

臨床部 松本美由紀（作業療法士）

最近では「リハビリ（リハビリテーション）」という言葉を知らない人は少ないと思いますが、「作業療法」といわれるとわからない人は割と多くみられるようです。「リハビリ」とは社会復帰や日常生活の改善など、個々の患者さんにあった目標をたて、それに向かって諸機能の回復・維持のための治療や訓練、指導および援助をおこなうことです。また、より効果を上げるためにひとりの患者さんに対して医師、看護婦、理学療法士(PT)、作業療法士(OT)やその他の医療スタッフがチームとして係わります。よく、「理学療法士と作業療法士との違いは何ですか？」と聞かれることがありますが、簡単にいうと、PTは関節や筋肉などの身体の機能（下肢を中心に）のひとつひとつを治療する人、OTはその機能をあわせ、生活に必要な動作（食事、着替えの動作など）や手指機能を訓練・指導し、加えて職場復帰の指導や精神面の治療も担当している人をさします。

ここセンターでも外来患者さんがみえており、週

に2日リハビリをおこなっています。機能訓練や生活指導もちろん行ないますが、いちばん多いのは悩みごとの相談のようです。日頃、患者さんと一緒に過ごしながら感じることは、身体の回復はもちろん必要ですが、心の健康はもっと重要だということです。その悩みの中には、性格によるものもあれば、時には聞いているわたしの方さえ憤りを感じるような、水俣病であるがゆえの悩みもあります。そんなこんなしながらも真剣なときは真剣に、楽しいときは楽しく笑いながら、なごやかな雰囲気のなかでお互いに成長しあえたらと願いながら外来の患者さんを今後ともお迎えできればと考えています。



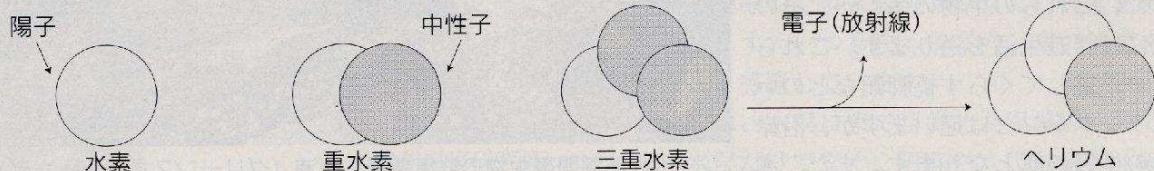
患者さんの作品のひとつ（カラーでないのが残念！）

RI実験－その1 ラジオアイソトープ－

基礎研究部 荒巻 亮二
(病理室主任研究員・放射線取扱主任者)

研究センター敷地内の水天荘寄りの一角にRI実験棟という2階建ての施設があります。ここは何をするところか、ということについて紹介しましょう。RIとは、何か？これは英語のラジオアイソトープ（Radio Isotope）の略号で、日本語では放射性同位元素といいます。ここまで説明するともうおわかりかと思いますが、放射線を出す（放射能をもつ）元素をRIとよびます。もちろん、放射線を出さない元素もあるわけで、私たちの回りに存在する元素はほとんどが出しません。それではどうしてRIは放射線を出すのでしょうか？水素元素を例にとって、図を見ていただきながら説明しましょう。一般に原子核は「陽子」と「中性子」という粒からできています。ある元素が水素であるためには「原子核に一個の陽子をもつ」という条件が必要です。ということは、

陽子が一個であれば、中性子が何個あろうが、やはり水素であります。私たちの回りの水素（存在する物質のほとんどに構成成分として含まれています）のほとんどは原子核に陽子が一個あるだけで、中性子はありません。しかし、中性子が一個あるいは二個あっても立派な水素であるわけで、0個の水素と区別するために、それぞれ重水素、三重水素（トリチウムともいいます）とよびます。このうち、三重水素は陽子と中性子のバランスが悪いため、ゆっくりとより安定な状態に変化していきます。具体的には、一個の中性子が陽子と電子に変わっていき、その結果二個の陽子と一個の中性子からなるヘリウムという元素に変わります。この変化の際、電子は外に飛び出しますが、これが放射線として検出されます。すなわち、RIとは不安定な原子核をもつ元素であるといえましょう。また、RIの半分が変化するのに必要な時間を「半減期」といいます。三重水素の半減期は約12年ですから結構ゆっくりしたものです。このようなRIを使ってどのような研究ができるのか、については次の機会に紹介しましょう。



海外見聞録

バングラデシュ国における水銀汚染工場跡地の環境モニタリング事前調査に参加して

基礎研究部 部長 中野 篤浩

バングラデシュのチッタゴン市郊外に1968年に日本の支援により水銀電解法苛性ソーダ工場が建設された。しかしながら、この生産方式では水銀が漏出し環境汚染を引き起こすおそれのあることから、1988年から日本の海外経済協力基金の円借款により改修事業が実施され1996年に水銀を使わない工場が完成した。

この度のJICAの再活性化事業として行なうモニタリングは、古い工場の解体処理後の周辺環境の水銀動態を監視しようとするものである。このモニタリングを実施する為の事前調査に当センターから坂本室長と筆者、九州環境管理協会から松岡次長が参加した。

バングラデシュの8月下旬はまだ雨期で、飛行機の窓から見える地上は一面緑と水溜まりだった。降り立ったダッカの飛行場も滑走路以外は水浸しで、ガンジス川の川口三角州地帯に位置する国の雨期の物凄さを実感させられた。

この国は25年前にパキスタンから独立し、その時の人口は約6千万人だったが、25年間で倍増し現在は約1億2千万人になっている。大都市の首都ダ

フィリピン国における 国際ワークショップ印象記

臨床部 部長 衛藤 光明

平成9年11月26日～27日の2日間にわたり、日本の科学技術庁の研究助成により、当センターおよびフィリピン国保健省の主催のもとで、「金採掘に起因する水銀の健康影響に関する国際ワークショップ」がマニラ市で開かれました。日本からは当センターの滝澤行雄所長他9名と、インドネシア、カナダおよびフィリピンの4カ国の研究者および行政官、総数153名が参加しました。

11月25日午後、ニノイ・アキノ国際空港でフィリピン側の出迎えを受け、マニラ・ダイアモンドホテル到着。翌日、開会式が始まり、右手掌を前胸部にあてがいながら唄うフィリピン側の国歌斎唱後に挨拶が続きました。9月の事前会議（前号に紹介）

カ市や港町チッタゴン市はヒト、ヒト、ヒトで溢れていた。この国の資源は水とヒトと云うことだったが、この二つの宝物で押し潰されそうな感じだった。国土がガンジス川の運んだ粘土だけで出来ていて岩石のない国で、建造物がすべて木造だったため昔の遺跡が全く残っていない。また現在、コンクリート用の石材も一度粘土でレンガを作りこれを碎いて用いている。宗教はイスラム教が主体でヒンズー教、仏教と続く。そのせいか街に飲み屋もなく酔っ払いが居ず、職場に女性は殆どいなかった。世界で2番目に貧しく、アジアでは最も危険な国と云うことで観光ツアーもない国だった。

この国で坂本、松岡の両氏は暇さえあれば人込みのなかに出掛け、現地の人と同じ物を食べ大いに楽しんでいた。その地球人と云うか国際派振りに大いに敬服させられた。

今回のモニタリングは、この国で水銀を測定することから始まるが、これが、バングラデシュの人々にとって環境問題を考えるきっかけの一つにでもなれば幸いである（平成9年8月28日～9月11日）。



路上で糸を紡ぐ少女

で入念に打ち合わせをしたつもりでしたが、約1時間後に日本の国旗が揚げられてないのに気づき、あわててホテルの支配人にセットしてもらいました。10時頃にはもう軽食とコーヒーが出され、フィリピンでは三食の他に二度の間食をする習慣があることを知りました。

2日間の公開フォーラムでの、研究発表は多岐にわたり、水銀に関わる健康調査とその評価、環境汚染、環境政策と法規制などを含めて20題に及び、この成果は本年3月に報告書としてまとめられました。

27日の午後には、当センターの赤木部長、若宮室長、環境庁の桐生室長補佐およびフィリピン側の案内役と共に金鉱山のあるダバオ州へ向かいました。定刻よりも1時間遅れのフィリピンタイムで出発。翌朝、取材のNHK職員の車一台と共に、計4台に分乗して金鉱山に入る予定で、かなりの山歩きを覚悟してゴルフ用のシューズを履いて出かけまし

た。しかし、小規模採掘業者の組合が、幹線道路を閉鎖するなどの金採掘権を要求するためのデモンストレーションをしている最中でした。デモ現場が危険であるため、ダバオ州知事から金鉱山行き中止の要請があり、結局、そのまま引き返すことになってしまいまいた。帰国してからのテレビの報道で同行したNHKの職員は勇敢にも、その後採掘現場まで足を運んだことが分かりました。結局我々一行は、ダバオ州タグム市内にある現在閉鎖中の金精錬工場に接した小学校と鉱山排水が流れ込んでいるイホ川

を視察して、ハードな一日を終えました。



ダバオ州知事を囲んで

国際会議参加記

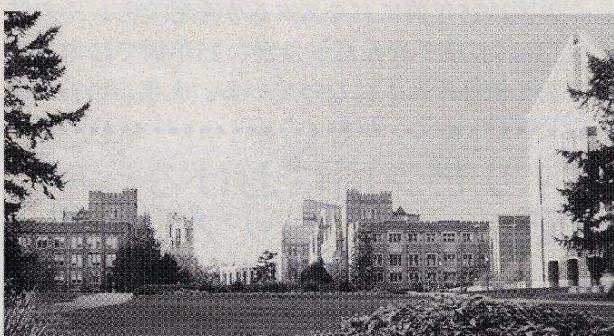
アメリカ毒性学会に参加して

臨床部 白杵扶佐子（理学診療室長）

平成10年3月1日から5日間の日程でシアトルで開催された第37回アメリカ毒性学会に参加した。この学会は、毒性学全般にわたって、臨床疫学、細胞生物学、生化学、分子生物学など世界各国から多くの分野の参加があり、毒性学の世界の流れを把握するには有用な学会である。地球環境が悪化する中、微量の金属や化学物質、電磁放射線、紫外線などに曝される危険は多くなっている。これらの環境ストレスが生体に及ぼす影響を熟知することは現在緊急課題といえる。本学会でも、さまざまな環境ストレスによって引き起こされる生体反応系の問題が多方面から議論されていた。私もメチル水銀を通してこの問題に取り組んでいるが、生体応答という側面からのメチル水銀の演題は昨年に比べ大幅に増加し、またダイオキシン関連の演題も増加していたのが印象的であった。

さて、シアトルは街中から富士山より高いレニエ山が望め、湖にも面していて、自然が豊かな美しい

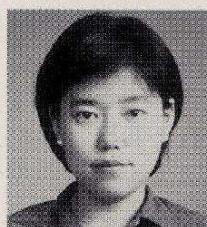
街である。また、道で目の合った見知らぬ人が自然に微笑みを返してくれるフレンドリーな街でもあった。知人の留学生に、ワシントン大学を案内してもらったが、大学構内はすべて禁煙で美しいキャンパスであった。土曜日であるのに、カフェテリアでは教科書やレポート用紙を広げているか、グループでディスカッションしている研究員や学生が日につき、いかにも勉強するといった雰囲気である。シアトルといえば昔はボーリング社、今はビルゲイツのマイクロソフト社といったところだが、ワシントン大学でもビルゲイツの寄付による母親の名を冠した建物が建設中であった。研究や教育に対し企業が積極的に関わっている姿勢が感じられた。帰りはカナダ沿岸を北上しアラスカの南を通る航路であったが、快晴の日で機中から雪を頂いた連山と氷河を眼下に見下ろせ、最高のフライトとなった。



ワシントン大学キャンパス

職員紹介

私の水俣生活



国際・総合研究部

あら
新 垣 たずさ
(社会科学室研究員)

(プロフィール)
昭和47年生まれ。沖縄県具志川市出身
桃山学院大学社会学部社会学科卒
趣味:温泉めぐり

卒業後、昨年4月より水俣にきました。不慣れな地理と運転のため水俣のみなさんに大変お世話になっています。いつも快く道案内、車の誘導をしていただき、感謝しています。

趣味は、水俣に来て目覚めた温泉めぐりです。週末は水俣だけでなく、阿蘇や八代方面へ「極楽」を

求めて足をのばすこともあります。現在は、周りの人から「過剰適応」と言われるほど、すっかり水俣生活に馴染み、楽しく毎日を過ごしています。特においしいものに目がない私は、豊富な海や山の食べ物を味わっています。最近では、採ってきたばかりのツワやユキノシタといった山菜、アワビのステーキを初めて食べ、「うまい」と感動しました。

当研究センターでは、国際・総合研究部社会科学院に研究員として在籍しています。私の仕事は、研究業務の他、水俣病に関する社会科学的研究会の事務作業、水俣病に関する資料収集業務、部内ミーティングの日程などを調節する部会係などです。

また、今年度、4月から私のテーマ「水俣地区住



命の大切さ

臨床部

宮本 清香

(看護婦)

(プロフィール)

昭和?年熊本生まれ。武藏野日赤短大専攻科卒。
趣味: 読書・レザークラフト
テニス・卓球・バドミントン

水俣市の隣、津奈木町に住みはじめて17年が経ちました。海と山に囲まれた素晴らしい環境に恵まれ、気持ちだけはいつも若いつもりでいましたが、いつのまにか子供達は私を見下ろすように大きく成長し、“お母さん最近小さくなったね”とからかわれています。水俣に来るまでは水俣病の知識もほとんどなく、小学生の時に体育館で見た劇症型の患者さんが苦しんでおられる画面や猫が狂い死にする様子から、水俣病とは恐ろしい病気であり、あまり住みたくない場所という印象が強かったと思います。それが縁あって昭和54年に水俣に来ました。その時の第一印象は風光明媚で、こんなに美しい所であんな

民の生活環境意識の変化」について聞き取り調査を始めます。水俣に住む人々の生活史から生活環境意識について考えたいと思ったからです。例えば「川や海でどんな遊びをしたか」というお話を聞かせてもらうことで、当時どんなふうに近隣の環境と接してきたのか、知りたいからです。

このように私の研究は、研究センターから外に出かけていく活動が中心になります。水俣のみなさんから水俣病に関連したことだけではなく、様々なお話を聞かせていただきたいと思っています。

多くの出会いがあることを楽しみにしています。これからもよろしくお願いします。

悲惨なことがあったとはとても信じられませんでした。

そして、すぐに私は助産婦として医療センターに勤務しましたので、分娩直後の臍帯をビンに保存して研究機関のお手伝いをしたのが、水俣病との最初の関わりになりました。お産でとりあげた赤ちゃんの数は軽く1000人を超え、その赤ちゃんたちも成長し、一番年上的人は今23歳になっていると思います。母親が命をかけて新しい生命を産み出す姿に感動し、命の大切さといつまでもその命が健やかであれと祈るような気持ちになりました。その後、水俣病総合研究センターに勤務して7年になりますが、水俣病患者さんを在宅訪問したり、外来ではリハビリなどをしています。水俣病患者さんと接する時間が多くなり、いろいろな話をしていく中で、子供だけを生き甲斐に、不自由な体で一生懸命にお世話をされている母親を見たり、小児性・胎児性の患者さんも様々な悩みを持っておられることが判ってきました。この美しい水俣から世界に向けて環境破壊の恐ろしさや、命の大切さを伝えていけたらと考えている今日この頃です。



Be positive

基礎研究部

山元 恵

(生理室研究員)

(プロフィール)

昭和39年大阪市生まれ
平成4年6月 現研究センターに入所
鹿児島大学理学部卒(医学博士)
趣味: Music & Sports

本研究センターにまいりましてから、もうじき6年になります。来所以前は、バイオビジネスの世界

で、診断薬およびファインケミカルの研究開発に携わっていました。現在はその世界とは異なるカルチャーの中で仕事をさせていただいているわけですが、予防医学の方向を向いた仕事という意味では共通しているかもしれません。微力ながら新しいコンセプトで少しでも社会のお役にたてるような仕事をさせていただければと思います。環境医学はこれからますます重要な分野となると考えられます。私はその中で環境汚染の胎児・新生児に及ぼす影響(詳しくはまた次の機会に)に焦点を当てた研究を進めています。よろしくお願いいたします。



Research Resource Bank (リサーチ・リソース・バンク)

展示室の公開をはじめて1年が経ちました。この1年間に、日本人130名、外国人98名の方々に見学に来ていただきました。アンケートにお答えいただいた皆様から寄せられた、貴重なご意見は、今後の当センターの運営に積極的に生かしてまいりたいと考えております。本年4月からは、ご来館いただいた皆様のうち、希望される方については、髪の毛の水銀値を測定いたしております。髪の毛は少量で水銀測定が可能ですし、また短時間で測定値をお知らせできますので、ご来館の折にはお気軽に声をおかけ下さい。

イオン性無機水銀、ちょっと聞き慣れないことばです。ただ無機水銀というと、前回紹介した金属水銀も含みますから、それと区別するためにこういいます。化学式では Hg^{2+} と表わし、金属水銀が酸化された形のものです。ここでは「無機水銀」と名付けて、話を続けていきます。無機水銀は酸化水銀、塩化水銀、硫化水銀といったいろいろな化合物塩として存在します。このうち、硫化水銀は非常に安定でまず水には溶けません。ちなみに水俣湾底質中の水銀は、そのほとんどがこの硫化水銀である、といわれています。無機水銀の毒性効果についても簡単に紹介しましょう。一応水銀ですから、私たちの体の中に入るといろいろな障害をおこします。しかし、幸いなことにこの種の水銀は消化管からは非常に吸収されにくく、また生活環境の中に危険性をもった（水に溶けやすい）無機水銀化合物がほとんど存在しないということもあって、誤って口から入れて中毒をおこした、という報告例はほとんどありません。私どもが、動物実験で無機水銀の代謝や毒性効果などを調べ



第2回 滝澤杯争奪 国水研レクリエーション大会

職員相互の親睦を深めることを目的とした「第2回滝澤杯争奪レクリエーション大会」が昨年11月から今年の3月にかけて開かれました。昨年に引き続き、バドミントン、卓球等、数種目の団体戦として、昼休みや勤務終了後の夕方の時間を利用して各部間で競いあいました。結果は、各種目に圧倒的力を見せつけた基礎研究部が他の部を寄せつけずダントツの優勝でした。2位以下は、総務課、臨床部、国際・疫学連合の順でした。



水銀のはなし —その3— イオン性無機水銀

る時は、静脈、皮下、筋肉などに注射して、直接体内に入れるという方法をとります。このようにして、体内に入った無機水銀は、血液の流れに乗って、速やかに腎臓へと運ばれ、やがて尿中に排泄されます。脳にはほとんど取り込まれません。注射した量が少なければ、なんら障害を残すこともなく排泄されてしまうのですが、大量に注射すると、腎臓に大きな障害を与え、さらには中毒死に至ります。無機水銀が強力な「腎毒素」である、といわれる理由はひとえにこの臓器に蓄積しやすいためといえます。前に述べましたように、私たちの生活の中で、無機水銀がそのままの形で体の中に侵入することはほとんどありません。しかし、前回紹介の金属水銀は簡単に吸収されて、体の中で無機水銀に変化します。したがって、ヒトでの無機水銀中毒例では金属水銀に起因するケースがそのほとんどを占めます。また、メチル水銀も体の中で無機水銀に変化しますが、このことについてはまたの機会に紹介しましょう。

(AY)



編集後記

「国水研だより」も創刊から1年、どうにか第4号までこぎつけることができました。センターではいろんな分野の人がいろんな仕事をしています。今回からの新シリーズとして、「業務紹介」の記事も掲載することにしました。センターでの私たちの取組みを少しでもご理解いただければ幸いです。(AY) 編集委員：秋吉利彦・衛藤光明・松本美由紀・保田叔昭・安武 章

国水研ホームページ <http://www.nimd.go.jp>

発行所：環境庁 国立水俣病総合研究センター

〒867-0008 熊本県水俣市浜4058-18 TEL 0966-63-3111 FAX 0966-61-1145

発行日：平成10年5月1日

発行責任者：国水研だより編集委員会

制作協力：旭印刷

※この用紙は再生紙を使用しています